大回転成年女子Aで7位に入った横尾彩（日大）＝岩手県の安比高原スキー場、河野光吉撮影

横尾7位入賞

大回転 成年女子A

冬季国体

特別国民体育大会冬季国体スキー競技会「いわて八幡平白銀国体」第2日は18日、岩手県八幡平市の安比高原スキー場ほかで競技が始まり、アルペンは大回転を行った。

県勢は成年女子Aで横尾彩乃（日大）が1分14秒99で7位入賞を果たした。横尾は52番目と不利なスタート順ながら、荒れたコースをものともせず攻め続けて好記録を出した。成年男子Aは金子竣哉（宇都宮市消防局）の1分11秒06で25位が県勢最高。堀口直暉（ビレッジ宇都宮）は39位、大貫零旺（日大）は57位だった。成年男子Bの水上早瀬（JSR）は47位だった。

横尾彩乃

第3日は同会場でアルペン大回転の成年女子B、少年女子や田山クロスカントリーコースで距離の成年男子C、少年女子などを行う。

《スキー》（岩手県八幡平市）

▽成年男子A大回転 ㉕金子竣哉（宇都宮市消防局）1分11秒06 ㊴堀口直暉（ビレッジ宇都宮）1分13秒42 ㊿大貫零旺（日大）1分15秒33

▽成年男子B大回転 ㊼水上早瀬（JSR）1分24秒70

▽同10キロクラシカル史（常盤小教）36分40秒2

▽成年女子A大回転 ⑦横尾彩乃（日大）1分14秒99

ビレッジ宇都宮・堀口直暉（アルペン大回転成年男子Aで39位）「今まで出た国体の中で一番落ち着いてスタートできた。思ったほどコースは荒れてなくて一定のリズムを取りながら滑ったが、長いコースで難しかった」

JSR・水上早瀬（10年ぶりに現役復帰してアルペン大回転成年男子Bに出場し47位）「練習不足だった。序盤の急斜面で体力を使ってしまいタフなコースで最後まで持たなかった。10年前より気持ちは楽に滑れた」

宇都宮市消防局・金子竣哉（アルペン大回転成年男子Aで県勢最高の25位）「序盤は硬めの雪でエッジが利いていたが、中盤以降はふかふかの雪質で滑りにくかった。終盤に旗門の所でバランスを崩さなければもう少しいい記録が出たはず」

「おおっ」。横尾彩乃（日大）がゴールした直後、記録を確認した観客や関係者からどよめきが起きた。アルペン大回転成年女子Aで52番目という圧倒的に不利なスタート順からの7位入賞。「手応えのある滑りだった」と笑顔が弾けた。

コースが荒れない15番目程度までのスタートが優位とされるアルペン競技。前回大会の県勢の結果が順番に反映されるため、横尾の順番は遅くなった。それでも「優勝したいな、と思って滑っていた」。最初から強気に一発を狙っていた。

多くの選手が滑った雪面は「段々になっていた」と、明らかな悪条件でも「思っていたよりは悪くなかった」。理想的なラインを外さないように注意して序盤の急斜面で加速。中盤以降の長い緩斜面はスピードを殺さないことに集中した。

スポット

悪条件 冷静に攻め抜く

成長を証明する結果だ。足利大付高から昨春の日大進学後、トレーニングの質が向上。筋力強化の箇所や意図をしっかり把握することで負傷がちだった体が徐々に進化した。内側に体が傾くフォームの悪癖も外側の足に体重を乗せることを意識して克服しつつある。

今季は各地を転戦する大会でも好成績が続く。「残る全日本選手権などの大会でもしっかり結果を出して、来季の日本代表に選ばるよう基準をクリアしたい」。19歳がさっそうと描くシュプールは世界への道筋も描いていく。（星国典）

バック

アイスホッケーアジアリーグ

アイスホッケーアジアリーグは18日、韓国のアニャンアイスアリーナほかで3試合を行い、HC栃木日光アイスバックスは首位の安養をペナルティーショット（PS）戦の末、4―3で下した。今季最多となっていた連敗を5で止め、通算19勝16敗、順位は3位で変わらない。